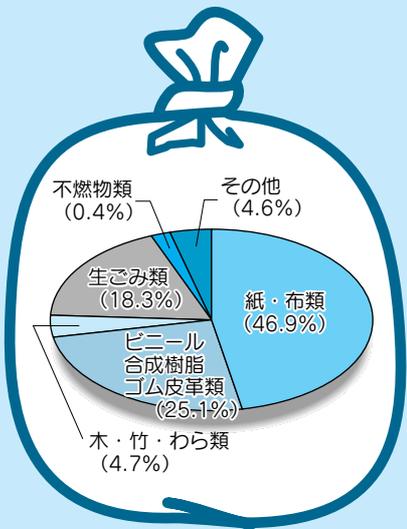


# 大館市のごみ処理事情

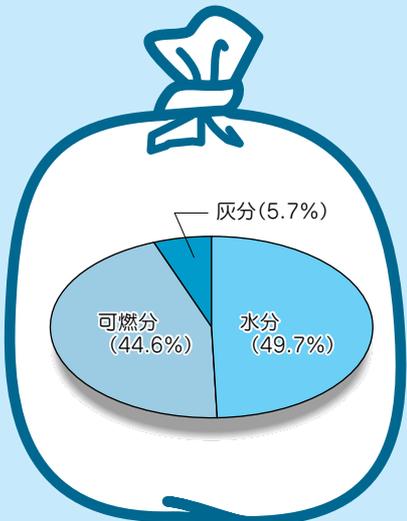
大館市の平成20年度のごみの排出量は3万685 t (市民1人1日当たり1,023 g)でした。また、ごみを焼却するために使われた費用は、約8億3千万円で、市民一人当たり約1万100円を負担したことになります。

大館クリーンセンターに運ばれてきたごみが、どんなもので構成されているか(ごみの組成表)、どのような成分(ごみの3成分)かをグラフにしてみると、生ごみ類の占める割合は約18%ほどで、このうち約8割は水分です。ごみ全体で見ても、水分が半分を占めています。

## ごみの組成表



## ごみの3成分



# チャレンジNo.2

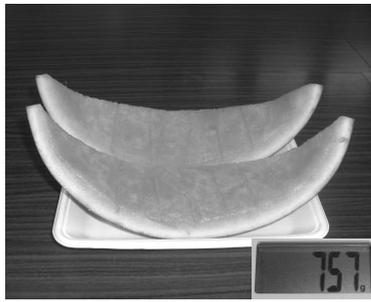
## 乾燥編



### スイカの皮を

### 乾燥させたら...

夏の果物に代表されるスイカは、9割以上が水分です。生ごみとして、そのまま廃棄した場合とある程度(今回は3日)乾燥させた場合、重さ(水分の差)はどれだけ違うのでしょうか。



### 乾燥1日目



開始から1日が経過。計量時の気温は19・6度と少し肌寒く、乾燥効果をあまり期待していませんでしたが、計量してみると前日から71gの減。十分に乾燥が進んでいることが確認出来ました。

### 乾燥2日目

開始から2日が経過。天候は晴れ。計量時の気温も24・8度と暑い一日になり、大幅な減量が望める条件が整いました。見た目にも皮がしなびてきて、計量してみたところ前日から90gの減。一気に減量化が進みました。



### 乾燥3日目



最終日の3日目。前日の好天が続き、計量時の気温は25・2度。計量の結果、前日から79gの減。一見、減量が進んでいないように見えますが、重量全体に対する水分の減り方は、前日も進んでいました。

## みんなの取り組みが 大きな成果を生む

3日間の実験の結果、240gの減量効果を得ることが出来ました(気象条件で変化あり)。もし、市内の全世帯が生ごみの乾燥に取り組んで、1週間に240gを減らすと、年間で約387tのごみの減量につながるということになります。

生ごみを乾燥させてから出すという意識を持つて実践すれば、焼却処分する量と掛かる費用も減り、また水分の少ないごみは燃えやすいため、施設や環境にも優しくなります。